

第4回山北地区地域審議会 会議録

- 1 開催日時 平成26年4月8日(火) 13:30~15:43
- 2 開催場所 山北支所 会議室
- 3 出席委員 佐藤仙太郎、佐藤憲一、佐藤庄平、佐藤均、平方一生、富樫保晴
齋藤玲子、齋藤千栄、渡辺美紀子、加藤英人
- 4 欠席委員 富樫榮晴
- 5 出席職員 齋藤支所長、横山山北教育事務所長
(事務局) 地域振興課：富樫室長、富樫係長、齋藤主任
- 6 傍聴者 なし
- 7 会議次第 別紙のとおり
- 8 会議経過 別紙のとおり

第4回山北地区地域審議会 会議次第

- ・日 時 平成26年4月8日(火) 13:30～
- ・場 所 山北支所 会議室

1 開 会

2 挨 拶

3 議 事

(1) 山北地区の課題についての意見交換

資料No.1

4 その他

5 閉 会

会 議 経 過

1. 開会 (13:30)

事務局： 本日はお忙しい中、ご出席をいただき、ありがとうございます。

本日の審議会の出欠ですが、富樫榮晴委員から都合により欠席との連絡が入っているほか、齋藤玲子委員から遅参の申し出がありますのでご報告いたします。また、これまで区長連絡協議会より推薦いただいています委員であった間勝秋さんの後任がまだ決まっておらずに1名欠員となっていますので、併せてお知らせいたします。

それから、4月1日の市職員の人事異動により事務局を担当しています自治振興室にも職員の異動がありました。板垣副参事、青木主任がそれぞれ転出し、富樫係長が転入しましたので、ご報告いたしますとともに今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

それでは、まず会議に入ります前に、本日の会議資料の確認をさせていただきます。

本日使用します資料は、事前に配布させていただきました「資料No.1」と、本日配布しました「審議会次第」となります。

以上です。よろしいでしょうか。

それでは、ただ今から第4回山北地区地域審議会を開会いたします。

2. 挨拶

事務局： それでは、最初に会長からご挨拶をお願いいたします。

会 長： みなさん、ご苦労様です。

みなさんには、公私ともにご多忙中にもかかわらず、第4回山北地区地域審議会にご出席いただき、心から御礼と感謝を申し上げます。

本日は、ご案内しましたとおり、審議テーマである「10年・20年後の地域社会を支えるため、自分自身と産業団体、地域審議会が今なすべきこと」に関して、みなさんからの提案やご意見をいただく予定にしています。

どうぞ、よろしくご審議くださいますようお願いいたします。

事務局： ありがとうございます。

それでは、これから会議に入らせていただきます。会議の議長は会長が務めることになっておりますので、会長に議長をお願いいたします。

それでは会長、よろしくお願ひいたします。

3. 議事

(1) 山北地区の課題についての意見交換

会 長： それでは、さっそく次第の3「議事」に入ります。

まず、「(1) 山北地区の課題についての意見交換」についてを議題といたします。この件について、事務局から説明をお願いします。

事務局：【資料No.1により説明】

会 長： ありがとうございます。

それでは、今ほど「資料No.1」に基づいて事務局から説明がありましたが、本日の審議については、あらかじめご案内してありますとおり、審議テーマを「10年・20年後の地域社会を支えるため、自分自身と産業団体、地域審議会が今なすべきこと」とし、これに関して、皆さん一人一人から5分程度の発言をお願いしているところでありますので、よろしく願いいたします。

それでは最初に、私の方から発言したいと思いますのでよろしく願いします。

当地区においては平成に入りまして、元年から今年まで約2千人ぐらいの人口減ということになっておりますし、これからもまたその傾向がまだまだ続きそうな感じもしております。行政のスリム化とか効率化、住民サービス拡大のための市町村合併だったはずですけども、時間を経るうちにだんだん支所機能も、大幅な縮小が続いているのが現状であります。住民の生の声を聴くことができる機会、窓口を閉ざしてきているというようにも感じています。

行政においては、市全体の大きな事業、たとえばインフラ整備とか、全市民を対象とした画一的な施策や事業を優先している感もうかがえます。

村上市という広い圏域の中での、各地域の特性を活かした運営がなされていないようにも感じていますし、もっと血の通った行政運営を期待したいと思っております。また、議会においても、もっともっと活性化してほしいと思っております。

また、当審議会においても、本年度と昨年度の2年間にわたって市長からの諮問事項がございませんでした。審議会の役割では諮問を受けて答申することになっておりますが、具体的には何もなかったということです。そのかわりといっちはなんですが、本審議会では、村上市総合計画及び実施計画の勉強会や、まちづくり協議会の計画策定に関しての現状の把握と課題の抽出などを見い出すことができたのではないかと考えております。

また、本審議会は、必要に応じて地域の施策等について、市長に対し意見を述べることも規定されており、これも審議会の大きな柱となっています。そして、任期中最後の審議会ということですので、今回皆様方からご意見を頂戴したうへこれを精査して、市に対して意見すべき事項があれば意見を述べていきたいと考えていますので、よろしく願いします。

私からの意見は以上です。

それでは、順番に各委員から発言していただきたいと思っておりますのでよろしく願いします。

委 員： それでは、私は日頃考えていることを何点か意見として述べさせていただきます。

まず、今ほど会長からも話があった支所機構がこの4月から2課制になり、さらに29年度からは1課制になり体制が縮小される予定になっているようですが、この縮小するという考え方が私にはどうも理解できません。

最終的には、私のイメージでは山北支所は出張所扱いになるのではないかと

懸念しています。

やはり住民と直接接する部署においては、ある程度人数が確保され、かつ組織として柔軟でなければ対応できないものと思っています。たとえば、3人の課長がそれぞれの課題や懸案事項に対応していたものが、1課制になると1人の課長がすべて対応することになります。そうなるとその人の資質にもよりますが、一般的に肉体的にも精神的にも相当な負担となるわけで、それが跳ね返って考えますと住民のためにも決して良いものにはならないと考えていますので、やはり2課制そして最終的に1課制にすることはメリットがなく、断じてよくないものと思われま。

やはり住民の立場に立った住民と接触できるものにするためには、ある程度の体制でなければ当然不可能なことと思いますし、すべて本庁に行って相談なり話をしてくだささいというような体制になれば、この山間地でありますこの山北地区は大変なことになります。これは、朝日地区やそのほかの地区にとっても決して良いことではないと思っています。

それから、今年の職員の配置表を見て驚いたことですが、それは前々から気にもなっていたことでもあるわけですが、それは非常に臨時職員が余計だということです。たとえば、保育士が24人いますがそのうち臨時は16人の66%となっています。それから調理師と用務員では6人のうち4人の66%が臨時職員です。また、学校の用務員では9人のうち8人の89%が臨時職員となっています。短期間の仕事であれば臨時ということも考えられますが、恒常的に配置が必要な業務において、同じ仕事をして片方は正職員ともう一方は臨時職員ということになれば、やはり本人のためにもなりませんし、子どもや父母のためにも決してよくないものと思いますので、この点についても改正すべきことだと考えています。

それから、退職した方を雇用する再任用制度に関してですが、やはり新しい人を採用した方が雇用の場の確保や結婚問題の解消にも波及すると思います。特に、この山北地区においては、結婚しない人が多いという実態ですので、新しい方の採用により、結婚そして出産と人口増にもつながると思います。

いずれにしても、将来を見据えた施策や行政運営をしてもらいたいと思います。以上です。

会 長： ありがとうございます。

それでは次の方をお願いします。

委 員： 私は、住民が相互に支えあって安心して暮らせるまちづくりを進めるということを目的としたNPOで活動して9年になりました。まだまだ道半ばでさまざまなことがありましたが、いつもこの会の目的を忘れないようにその度ごとに立ち返り、みんなで活動してきたつもりでいます。そこで、これまでの活動を振り返ってみて、感じたことを話してみたいと思いますのでよろしくお願ひします。

現状をいろいろ考えてみると、山北地区の高齢化は42%で、ほかの地区に比べると10%あまり高い高齢化率となっています。主な理由としては転出者が多

いということからだそうです。そして最近、介護保険の改正がなされ、高齢者に係るさまざまな支援が市町村に移管されることになりそうです。そして委員も言われましたが、先日配布された配置表を見て、支所職員の減少には、すごく急激に減ってきたのだなと驚かされたと同時に、いよいよ待ったなしで、これまで行政の方にお任せしていたことも、自分たちで自主的に担っていかなければならない時が来たのかと思っています。

今、山北ではいろいろな取り組みがされていますし、ボランティアの団体もありますし、経済的な活動をされている団体もありますし、自主的な団体もあります。私が思うには、それぞれにおいて一生懸命活動はしているわけですが、それぞれが一生懸命なだけで、よその団体と連携して活動するケースが少ないように常々思っています。

困っている人の声を届けるどころか、届いたらそれを受け取ってその声をどうすればよいのか考え対応する部署がないのが現状で、実際に困っている人がいるのに、その解決方法がなかなか見つからないということが多いのではないかと思います。

新潟の社協に、ごちゃまぜネットワークというものがあまして、そこにはいろいろなことで活動する団体が加入しており、上もなく下もなく横並びのいろいろな団体が、緩やかにネットワークを組んで情報交換したりして活動しているということです。そこで、山北でもこのような山北版ごちゃまぜネットワークみたいなものを作れないものかと考えています。作るの難しいことだと思いますが、初めから出来ないということではなく、どのようにしたらネットワークが組めるのかなどを検討し、ただ、どこが音頭をとったりイニシアチブをとればいいのかをわかりませんが、ネットワークを山北にも作れたら良いのではないかと思います。

困っている人が声をあげて、それを受け取った人が個人や団体などいろいろなところに相談し連携しながらよくしていこうという取り組みが大事だと考えています。行政は行政でしかできないことがあるわけですが、やはり自分でできることは自分たちで、頑張っってやっていかなければならない時代になったのだと考えています。もちろん行政の方たちと協力し連携しながらやっていきたいと思ひますし、行政の方も精いっぱい頑張っっていただきたいと思ひます。

以上です。

会 長： ありがとうございます。

それでは次の方をお願いします。

委 員： 10年、20年後の姿ということで、こうなっっていったらいいなという点について話をさせていただきますので、よろしくお願ひします。

20年後は私も高齢者になっているわけですが、観光に携わらせている観点から言ひますと、やはり魅力ある観光というのひは、交流と連携というのひが大事だと思ひますので、今の状態からもっともっ横のつながりを深くして他県にわたっって連携を深めていくということが重要なことだと思ひます。そして、訪れた人が来てよかつたど、また来てみたいと思ひていただけるような、さら

に定年したらここに住みたいと思うような取組みをしていくことが大事だと思います。

空き家バンクを市の方でも行っていますが、私の近所にも空き家が増えています。そして、民宿においては、高齢者となり民宿を経営できないなどの理由から大幅に減っているのが現状で、笹川流れ地区も宿泊場所が少なくなって来ている状況です。

その辺を踏まえますと、やはり雇用の場、特に高齢者がもっと生き活きと生きがいを持って生活できる場所を確保することが大事なことで、そのための施策をすぐにも実施することが大事ですが、もう行政側だけに頼っているのは、制限されますし問題は解決しない限界にきているものと思っています。地元のやる気のある有志が出てこない限りは、取り残されてしまう地区がどうしても出てくるのが危惧されます。

今から何とかして、そういう取組みをしていかないことには、厳しくなるものと考えますので、そのためには、村上市も6次産業化の推進をもっともっと推進していく必要があると思っています。観光面でも、よそからこられる方々を巻き込んでいかなければ、成り立っていかないのではないかと考えています。そうすることにより生まれる産業も考えられますし、中には高齢者の活躍する場も、たとえば接客やおもてなしなどの若手にできないものもありますので、ぜひ進めるべき施策と考えます。

10年、20年後は長いようですぐのことだと思しますので、今から必要な施策を展開していくことが大事だと思います。そして、行政と市民が垣根を越え、一緒になって取り組んでいかなければならない時代だという意識を、もっと多くの住民が持たなければならぬと考えています。

住民自らが真剣に、地元の将来や、地区、市の将来を考えさせる動機づけをする機会や実際の取組みがもっと必要になってくるものと思っています。将来の人口の減少は目に見えていることなので、そのような取組みをすることにより光が見えることもあると考えています。そして、ここはよその地区とはちょっと違いよい地区だねと思われるような、そのような山北地区になればいいと考えています。

以上です。

会 長： ありがとうございます。

それでは次の方お願いします。

委 員： ご苦労様です。

私は山北に帰ってきてから26年になりますが、交流の館八幡もすでにもう15年になろうとしています。体験と交流を地域の皆さんや来訪者の皆さんと一緒にやっています、ここをキーステーションとして地域づくりにかかわっており、今では子ども達の特に担い手育成を目的とした地域づくりのボランティア活動を行っています。このことは、村上市内では一番活発に行っており、よそに誇れることだと自負しております。

地域づくり活動において、やはり足りないと思っていることは、子育て世代

の参画が、時間がないという理由から少ないということです。その点は、これから一緒にまちづくりを進めていくうえで不可欠なことなので、どうすればその世代の皆さんが参画できるかが課題と思っています。

また、子育て世代を含め若い人たちが、自分たちが必要とされて地域づくりに参画するというような、若い人たちのまちづくりグループみたいなものがどうしても必要だと考えています。やはり今日のテーマである10年、20年後を考えた場合には、若い人たちの意見も必要となりますし、先般、日沿道の会議もありましたが、そのようなことを考えると、若い人たちの考えを十分盛り込んだ形で、山北地区の将来設計をしていく必要があるものと考えています。

若い人たちは、異業種間の交流や子ども達を介しての交流、集落間の事業等における交流はあるにしても、山北地区全体にかかわる交流や集まる機会がないように感じます。このことはまちづくり協議会の課題ともなっているわけですが、ぜひ世代間の縦のつながりと横のつながりを深める中で、みんなで誇りの持てる地域づくりを考え、目指す姿をみんなで検討していければいいと考えています。

そして、やはり最終的には人口減少問題があります。それには雇用という部分が一番キーワードになるのではないかと考えますので、これからも既存の産業をいろいろな形で工夫したりするほか、たとえば防災の駅に物産販売所を設けるという形にするとある程度人の雇用の場も増えますので、いろいろな観点からこの雇用の問題を、みんなで検討していければいいと思っています。

以上です。

会長： ありがとうございます。

それでは次の方をお願いします。

委員： ご苦労様です。皆さんからいろいろ良いご意見がありますが、私は、自分がかかわっていることの現状について話をさせていただきます。

先般、森林組合の職員募集を行いハローワークに出しても、地元山北地区の人からは誰も応募がなかったわけです。ということは、山北の親御さんは、地元の仕事があっても、子どもや孫を地元就職させるという気持ちが本当にあるのかということが疑問に思います。子どもが少ないなどいろいろ話がありましたが、やはり認識を新たにして地元を育てるには、子どもも孫も地元就職させるというような覚悟と認識をみんなが持ってもらうなければ、山北地区の将来はうまくいかないのではないかとつくづく考えています。応募してくるのは、朝日地区とか村上地区の方です。

いずれにせよ、いろいろ検討したところで、人が山北地区を出ていく一方で残らなければ、何にもならないということなので、基本である地元に残るための施策を重点において実行することが、一番大事なことだと考えています。

ちなみに、岩石集落には40戸ありますが、このうち空き家が9戸で、80歳以上の世帯が11戸で、ほとんど若い人がいない現状です。このような状態から、活性化はおろか集落をどのように維持していくかということが、第一の課題です。

やはり、基本である地元に残るための施策を重点において実行していけば、よくなるものと考えています。

以上です。

会 長： ありがとうございます。

それでは次の方をお願いします。

委 員： ご苦労様です。私は、農業について話をさせていただきます。

山北地区の10年後、20年後の農業について考えますと、非常に厳しいと思います。特に、今すすめられていますTPPの交渉結果しだいでは、山間地の農業は壊滅状態になるのではないかと、条件の良い平野の高地だけが耕作されて、山間地の棚田みたいなところは耕作放棄地となるのではないかと考えています。

私は現在65歳ですが、今後農業をできたとしたら10年くらいが良い方だと思っており、この間は何とか集落の田畑を維持していきたいとも思っています。そして今後、若者が採算のとれない農業をやってくれるかが疑問です。

そこで、行政にお願いしたいのは、山北地区は四季折々ものすごく良いものがたくさんあります。行政でも百姓やってみ隊事業を頑張っている行っていますが、春から秋だけでなく冬もよその人に来てもらう仕組みを作っていただきたいと思っています。とにかく、よそから人が来てそしてその中で交流をすることが、地域活性化には一番必要なことだと考えていますので、そのような情報をどんどん発信していただきたいと思っています。発信だけしていただければ、あとは地域の方々が何とか協力してやっていけるのではないかと考えていますので、その点よろしくお願ひいたします。

会 長： ありがとうございます。

それでは次の方をお願いします。

委 員： まず最初に、私の出身であります大毎集落の現状ですが、65歳以上が54%となっています。おそらく山北地区の他の集落、も同じような割合ではないかと考えています。

それで10年後にはどうなるのかということですが、だいたい65%が、20年後には75%が65歳以上になるとのことです。ということは、この方々にこれから頑張ってもらってやっただけかなければならないということから、その方々の組織を、今後もっと強化する必要があると考えています。

地元の老人クラブの会合に招待されて行く機会がありますが、そこでの話では、何年か前に老人クラブが解散したり、組織されていない集落がたくさんあるということです。さらに聞いてみると、そのような高齢者の組織がない集落は、ある集落よりも元気がないという話です。

そこで、今後の山北地区においては、おそらく大勢いるこの65歳以上の方が中心となるものと考えています。そうだとすれば、今後の山北地区の活性化につなげるためには、この方々をその地域でいかに活躍していただく施策実施することが重要だと考えています。昔はすべての集落に組織があったということですが、なぜ解散したのかなどの原因をよく分析して、今後、高齢者の組織がない集落の組織づくりとのびのびと活動できるような環境づくりに対し、行政

でも手助けをお願いしたいと思います。以上であります。

会 長： ありがとうございます。

それでは次の方をお願いします。

委 員： この委員を2年間務めさせていただき、いろいろなことを考えさせていただきました。以前、商工会さんのお手伝いで各集落の聴き取りに回らせていただく機会がありましたが、あの時と今を比べ感じたことは、この30年の間に山北が変わってしまったということです。それが何かというと、やっぱり人が少なくなったということです。昭和40年代、50年代のころは、高校の山北分校もあり、露天市場立ち並びもにぎやかで、今に比べ、あのころは本当に山北の人たちが活気にあふれていました。やはり、さまざまな人が山北に来て生業をしていたということが大きいわけですが、今の農林業の衰退であれ観光業の衰退であれ、人がいなくなったということがそもそもの原因で、そのことによりさまざまな問題が起こっているということです。この問題は、どこでも抱えていることで、山北だけが特別なことではないわけですが、山北はその進行が非常に速いということです。

かといって、それを嘆いているばかりでは仕方がないことなので、私たちよりも早くこのよう状況になり、取組みを進めているところもあるわけですので、その取組み方とかユニークなアイデアをヒントにして、意識して勉強しながら、私たちが実際に取り組む活動を具体的なものにしなければならないと思っています。先ほどの話にもありましたが、話し合いだけで終わるとか、企画だけで終わるとかいうことは無駄なことでありますので、たとえばいろいろ計画した中でもこれだけは必ず実行するということが大切なことであり、そして、あまり大きなことを計画するよりも、実際に私たちがいますぐにでも取り組めることを順序立てて、進めていかなければならないのではないかと考えています。

その中で、私を感じたことは、商工会さんの組織がやはりこの地域おこしには欠かせない組織ではないかと考えています。商工会さんのいろいろなネットワークの活かし方によっては、まだまだ活力を見い出す機会があると思います。それと、地域おこし協力隊ですが、すでに全国で若い人たちが意欲を持って、過疎地に入っています。若者が入ることによって、その地域が格段に元気になっていることを新聞やテレビで拝見しましたが、やはり山北もこの協力隊を早く取り入れていただきたいと思っています。

それから、ずいぶん前からおたすけ山北という組織がありますが、この活動の活かし方しだいによっては、山北地区にとって便利な組織となるはずですが、ただそれをサポートする行政や、そのスタッフの方の力が不足しているように思われます。スタッフが足りないのであれば、よそから連れてくるという考えもあっていいと思います。

それから、退職者の特に男性の交流の場がないということです。現役で仕事でバリバリやってきたけれども、退職後において周りを見たら、横の関係が作れなくなってきているということをおっしゃる方がたくさんいるようです。女

性の方はそれなりにしたたかに生活しているわけですが、男性の方はなかなかそういったことの活動がしにくい状況にあるのではないかと思いますと、やはりその方々の組織づくりといいますか、まだまだ地域の中心となって活動できるエネルギーのある年代だと思しますので、できれば退職された方々の経験を活かして活動できる組織というものをぜひ立ち上げてほしいと思います。

それから、最後に、文化面についてですが、ここ二十数年で文化面においても貴重な人材がいなくなりました。知恵袋といわれた方、経験豊かな方がどんどん年老いてしまって、若い人たちが伝統芸能や生業としてきた文化を、どうやって継承していくのかということが大きな課題となっています。昔から営々と受け継がれてきた山北ならではの文化をもう一度見直して、特産にするとか、観光の目玉にするとかということも、とても重要なことだと考えています。

私からは、以上です。

会長： ありがとうございます。

それでは最後をお願いします。

委員： 現在感じていることを申し上げます。

私は、朝日地区でサービス業を行って37年くらいになります。始めた当初は、かなり人口もあり需要もあり、やりがいのあった時期だったわけですが、やはり徐々に人口が減るにつれ、商売のやり方が難しくなってきました。そこで仕事のやり方やサービス面などで営業努力もしているつもりですが、それだけでは間に合わない時期に差し掛かってきていると感じています。

せがれが戻ってきて、今営業に回ってもらって一緒に商売をしていますが、やはり朝日地区においても品物などを買うとかなりますと、旧村上市や新潟ということになっており、地元にお金を落としてくれないという実態があり、サービス業だけでなくそのほかの業種全般が難しい状況にあるのが現実となっています。どうすればよいのか思案しているところで難しい面はありますが、やはり、活動の範囲を広げて、お客様の要望しているかゆいところに手の届くような活動をやらなければ成り立たないという覚悟で、何とか店を続けていきたいと考えています。

今まで皆さんがおっしゃったように、後継者がいないから高齢化し人口が減少しているわけで、今一番苦しい時期だと思います。こんな中、今一番我々に求められ試されているのは、「しぶとさ」とか「あきらめない」という気持ちの持ち方から見つめなおし、少しずつ実行していくことが大事なことだと考えています。現在感じていることを申し上げました。以上です。

会長： ありがとうございます。

今ほど、委員の皆さんからは貴重な提案やご発言をいただき大変ありがとうございました。これからは、今ほど皆さんからいただいた発言を踏まえての、自由な意見交換の場といたしたいと思しますのでよろしくをお願いします。

皆さんの発言において、この点については、私はこう思うとか、このようなことは考えられないものかとかいうようなことでも結構です。

また、今月を持って委員の任期満了となりますので、この審議会に関する所

感でも結構かと思しますので、どうぞ、ご自由にご発言願いたいと思います。

この点について、どなたかありませんか。

支 所 長： 先ほど委員から、保育園で臨時保育士が非常に多いという発言がありました。このことに関してお話しさせていただきたいと思います。村上市内に17保育園がありますが、これを調べますと臨時保育士の割合は平均66.8%でありました。一番割合の高い保育園は第二保育園で76.2%が臨時となっていました。一番少ないところが上海府と三面保育園で50%であり、半分半分が一番臨時割合が少ないという状況です。

今年から荒川は、統合保育園として指定管理になっていますが、山北においてもこの少子化の中で、将来どうするかという方針がはっきり決まっておられません。

それから、支所の職員数でございますが、平成26年度の本来の人数は、教育事務所を含めて41人の配置予定数でありましたが、早期退職者等の関係から39人の職員体制となっており、平成29年度からの1課体制に迫っている感じがいたします。先ほどの委員の発言に関連してお話しさせていただきました。

会 長： ありがとうございます。

どなたかありませんか。

委 員： よいですか。

保育士の数の問題ですが、実際に臨時職員が多いということは、はっきり言ってその目的は経費がかからないようにすることであり、単純にそう思えてなりません。それで朝日、村上が保育園の運動会が平日に行っています。お遊戯会とか。そうすると父兄の方々は、仕事を休まないと参加できないこととなります。なぜ平日に行っているかという、臨時職員を土、日に働かせると、翌平日に休ませなければならないというそういう弊害があるからです。一般の方はその辺についてわからないことと、臨時職員の雇用面から迫られると、父兄の皆さんもそこまではなかなか言えない部分があります。

逆に指定管理になると、保育園の保育時間は午後7時30分まで、そして病気の子どもも預かるということです。民間になるとサービスが良くて、行政だとできないと、だから民間の方が良いですよと言わんとしているような感じにすら受け取られます。それは非常におかしなことだと思います。

保育園・幼稚園は、マナーを教わり教育の始まりであり入口なのだから、その点について考えていただかないと、人口減少、子育ての応援だとかの庁内検討会議を論ずる前に、まず最初に考えてもらいたいと思います。

委 員： 全く同感です。単なるその人個人の雇用という側面だけの問題ではないと思います。広く定住対策とかそのほかの対策に結びつくことなので、やはり正職員という安定した職場を与えて、伴侶を見つけて将来はここに定住するというケースも大いにあるわけで、単なる臨時という待遇だけの問題でなく、もっと隠れた大きなものがあると思うので、それを意識してもらわないと。半分以上が臨時という職場はないと思います。この点この審議会で何とかならないものですか。

会 長： 冒頭の私の発言でも触れましたが、この本審議会は、必要に応じて地域の施策等について、市長に対し意見を述べることも規定されています。

委員の全会一致のことであれば、伝えることは可能です。

委 員： ぜひ、そうしてください。

それから、支所の体制や人員配置に関しても、2課体制となり、またその後は1課体制となり、職員が減っていくということは、だんだんと住民と行政のつながりが薄れてくる原因となります。また、支所に行っても用事が足りず、村上の本庁に行かなければならないこととなります。旧村上の住民は何も変わらないのでいいけれども、やはり離れた地域はことに山北地区は、ある程度99%完結できる機能を持った支所機能でなければその影響は大なるものがあり、住民に大いに迷惑をかけるとともに、同じ市民でありながら不公平感を抱かせる要因にもなります。

委 員： 私もそのように思います。

それから、市民協働のまちづくりということで、当初自治振興室5人で地域に張り付いてまちづくり協議会を運営しますので、一緒に汗かきましょーと言いながら、協議会が設立した後、職員が減らされています。このことを、住民はどのように理解すればいいのかと思います。

会 長： 職員は、苦勞しながらもなんとかやってくれると思いますが、一番困るのはここに住んでいる住民です。特に、これからまちづくり協議会で具体的に事業に取り組んでいく場合、今までであれば行政が行っていたことも、協働のまちづくりということで一緒にやりましょーと言いつつも、住民からすれば、実際に半分は住民に投げかけているようにも見える部分もあるようです。財政的なこともあります、やはり住民に迷惑をかけないための必要な人数はあると思いますし、その人数も確保できないような体制はよくないことだと思っています。

住民からの要望や苦情は随時あることであり、いちいち本庁に伺いを立てなければ物事ができないとか、そういうことのないように、住民と一緒に頑張って汗を流してくれるような職員が、ぜひとも常に支所にいてもらいたいと思うようにしています。

委 員： 要するに、先ほども言いましたが、3課があつて課題や懸案事項が3件あったとすれば、3人がそれぞれに対応できるわけで、1課制になると1人の課長がすべて対応することになります。これは3倍になるのでよい体制ではありません。

しかも住民は、こういう本庁から離れたところであればなおさら、行くことが大きな負担となり、なかなかいけないと思いますし、当然、支所に来て相談に乗ってもらうこととなります。そして支所は少なくとも前段の対応をしなければ、極端なことを言えば、その対応さえできないということになれば支所はいらんと思っています。住民に与える影響を考えないで、ただ単に2課にします1課にします、人員は減らしますということは、住民を無視した愚弄した話だと思います。このことは住民に多大な影響がありますので、意見として上

にあげるべきことです。

委員： その点、支所の方を突き上げるようなことで、私たちも非常につらいところもありますが、私も民間の会社にいたことがあり、お客様と直接接し中間で働いている人は一番大変だと思います。上にあげてもなかなか取り入れていただけなかったことも多くあったように思われます。

そういう意味で、職員の皆さんも大変な思いで仕事をしているものと思えますし、そのように理解しています。

そのような中でも、何か重要なことがあった時には、やはり住民の力を借りて解決するように動いていただきたいと思いますし、知恵をお借りして住民の声を代弁していただくことは、職員の方にしかできないことだと思っています。住民みな応援しています。

委員： 同感です。このことは市長に山北地区地域審議会の意見として述べることはできますか。

会長： 当審議会の総体的な意見ということであれば、それはしてもらえると理解していますので、みなさんそれでよろしいですか。

同： 異議なし

会長： 異議がないようですので、それではそのようにいたします。

そのほか、何かありませんか。

委員： 日沿道の件ですが、私たち女性は、日沿道の最新の情報や、その話し合いがどこまで進んで、将来はどのようになるのかということが不足しているわけですが、わかる人がいましたら、余談でもいいので聞かせていただきたいと思います。

委員： 1月27日に日沿道山北地区活性化促進協議会の設立総会を開催し、私が会長を務めさせていただくことになりましたが、その総会で、国、県、市に6項目の要望書を提出いたしました。また、3月27日にも県内の国の関係機関に同様の要望書の提出のため回らさせていただきました。

現状はまだ組織が発足したばかりであります。この要望事項につきまして、地域の皆様や有識者の皆様からいろいろお知恵をお借りしていきたいと考えています。やはり、計画されている3か所のインターチェンジが、より地域と密着したものになるように、この地域の活性化に結びつくものにするために活動していきたいと考えています。

まだ組織ができたばかりであり、要望事項に関する肉付けや、具体的な構想、計画はこれからですが、すぐにでもまとめなければならない事項だと思っています。

委員： 山北地区を活性化するためには、その取組み方によってはいい組織となる可能性があるということですね。

委員： そのとおりです。取組み方によって、単なる通過点になるかもしれませんし、山北はいいところだから、ぜひ寄ってみたいという地域になるのかどうか、それは、我々のこれからの頑張りにかかっているものと考えています。

やはりこの前、要望した方々の話を聞きますと、ぜひ山北に行ってみたい、

降りてみたいと思わせる特徴のあるインターチェンジに下さいと言われました。支所長その点の説明をお願いします。

支所長： この組織は、各団体の代表を集めて作った組織であります。活性化のためのいろいろなご意見やお知恵を拝借しながら計画づくりをした方が良いということで、今後会員の拡大を図る予定にしています。

ただ、この動きについて皆さんにお知らせをしておこなったことにつきましては、反省をしております。よろしくご指導お願いします。

会長： 高速道路はストロー現象により吸い取られてしまうということがよく言われますが、魅力ある地域とすることにより、高速を使って人を吸い寄せるという魅力ある地域づくりをしなければならないと考えております。

また、インターをどうするというだけでなく、インターを降りてからのその周辺の利活用について、そして既存施設などとの連携のあり方など、山北地区が活性化するための具体的事項を検討するものです。今のところは机上の計画でしかありませんが、私もその協議会の一員でありますので、今後、まちづくり協議会とも一緒に、できることから一つでもいいから着実に実施していきたいと考えています。

そのほかにありませんか。

委員： さまざまな組織の事業が行われているわけですが、個々の組織だけで独自に行われており、周りでは何をやっているのかわからないことがよくあります。その点、それぞれの連携が非常に重要に思います。たとえば、さんぽく祭は、商工会と支所、文化協会が協力して計画し実施しているわけですが、打合せで集まることによって各団体のいろいろなことがわかり、それを踏まえてお互いに理解を深め連携することができています。地域活性化のためには、そういう意味ではいろいろな団体が意見交換をできる場づくりを何回も設けることが、これからは大変必要なことと思っておりますがどうですか。

会長： それから、やはり村上市全体の先進的取組み事例や話題もいろいろいいけれども、それよりも地元山北の情報は知っているようで実は知らなかったというケースが多いようなので、これからは一生懸命に発信してもらいたい、少しでも事業に参加してもらえるような取組みも大事なことだと思います。

そのほかにありませんか。

委員： 山北地区地域活性化事業である、ふるさと山北の夏祭り事業の取組み状況は、現在どのようになっていますか。

事務局： 今段取りを組んでいまして、これから皆さんの方に実行委員をお願いする予定です。現在その準備をしています。

会長： そのほかにありませんか。

委員： この会議資料の課題の整理の中には、子育てに関することがないわけですが、現状、山北には遊び場がないということ。自然があるからいいのではと言われてもそうなりますが、まだ小さい子どもを連れた親にとってみれば、ちょっとした遊具があっても子どもを見守れる遊び場がないので、たとえば五十公野公園やそのほかのところまで結構行かれているみたいです。

そんな現状から、村上にもそういうものを目当てに来るような、家族で楽しめる公園みたいなものを提案してもいいのではないかと考えています。

それで、市内の公園に設置した遊具ですが、古くなると外されてその後は更新されないという状況にあります。これは村上市全域においてそのようになっています。責任問題からのようですが、外された後は単なる広場となるわけで、地元指定管理をお願いしても、地元はそのような状態から受けないとのこと。とにかくブランコの骨だけ残ってしまっている状況もあり、遊びに来た親子は驚いている状況です。

ぜひ、遊んで楽しめる、人が来るような公園であってほしいと考えています。

会 長： ほかにありませんか。

委 員： 地域おこし協力隊のその後の状況はどのようになっていますか。

事 務 局： 5月20日までということで募集をかけています。

委 員： 採用の時期がずれていることをこれまでも言ってきましたが、とにかく遅すぎます。よそのところはもうすでに4月から採用するというので新潟日報でも紹介されています。

今年度は仕方ないので、次年度は早いうちに計画立てを行いながら、着々と進めてもらいたいと思います。

委 員： 協力隊員の活動は、限定されることはないのですか。

事 務 局： 特別限定した活動を行ってもらうことはありませんが、ただ個人的な支援ばかりということになってしまえば問題もあり、その辺は配慮しなければなりません、原則として地域のために活動していただくものです。

委 員： 今希望者は何人くらいいるのですか。

事 務 局： 募集を開始したばかりで、まだ希望者はいません。

委 員： 期限まで募集がなければ、それで打ち切ってしまう予定ですか。

事 務 局： 継続して募集を行う予定です。

会 長： ほかにありませんか。

委 員： 話が戻るようで申し訳ありませんが、先ほど日沿道の協議会の話の中で要望事項の話がありましたが、その内容についてお知らせ願います。

委 員： 支所の方で事務局をしていますので、提出させていただいた要望書のコピーを後ほど配らせていただきますのでよろしいですか。

委 員： はい、ありがとうございます。

会 長： それでは、これまでいろいろな話がありましたが、さらに聞きたいこととか提案などがありましたら発言願いたいと思います。

委 員： 先ほど話しました、山北地区内において老人クラブがある集落、ない集落を後で教えてください。

事 務 局： わかりました。後でご報告いたします。

会 長： ほかにありませんか。

委 員： 前にもこの審議会で言ったことですが、公共交通の件ですが、反対に山北地区に問題を投げかけられています。要するに、山北地区の実情に適した公共交通のあり方を山北地区内で検討して、提案を本庁にあげるようにということで

す。それから、今商工会でも取り組もうとしている、買い物に困っている人の問題ですが、これらを併せて検討できればいいと思っています。これらは直面する問題です。

ただ、いずれも直面している問題で急いで解決策を講じる問題ではありませんが、どこで検討をするかが決まっていない現状で、とても残念に思っています。

会 長： その点については、この問題に関して市長が地域審議会に諮問した場合は、この会議で検討することもできますが、そうでなければ、まちづくり組織など別の適当な部署で検討していくことだと思います。

ほかにありませんか。

それでは、ほかに意見等がなければ、以上で本日の協議題に関する審議を終了します。

なお、皆様から本日いただいた貴重なご意見等は、事務局の方で精査して上げるべきものは上げるという皆さんの総意ですので、ぜひそのようにしてもらいたいと思いますが、それでよろしいでしょうか。

一 同： 異議なし

会 長： 異議がないようですので、それでは事務局、そのようにお願いします。

4. その他

会 長： それでは次に、次第4の「その他」についてですが、この件に関して最初に委員のみなさんから何かありましたらお願いします。

一 同： ありません。

会 長： 委員の方から特にないようであれば、出席しております山北支所の各課長等から、せつかくの機会ですのでみなさんに何か情報提供などあればお願いしたいと思います。

何かありましたらお願いします。

教育事務所長：【教育事務所の連絡事項について説明】

会 長： ありがとうございます。

今ほどの説明に対し何かありませんか。

一 同： ありません。

会 長： 事務局の方からは、何かありませんか。

事務局： この審議会委員の任期ですが、この4月30日をもって満了となります。

委員の中には、各団体長として当職で選任されている方や団体推薦によりお願いしている方がいるわけですが、その方々におかれましては、今後、もし交代がありましたら交代届の提出をお願いいたします。またこのほかにもお願いしております委員におかれましては、引き続きご指導をお願いしたいと思いますので、お引き受けくださいますようお願いいたします。

なお、この件につきましては、後日文書によりお願いさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

会 長： はい、それではこれ以上ないようですので、以上で議事を終了し、議長の任を解かせていただきます。

本当に拙い座長ということでありましたが、皆様のご協力により2年間務めさせていただくことができ厚くお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

それでは、事務局に進行をお返しします。

事務局： 長時間にわたりまして慎重審議大変ありがとうございました。

本日予定しました日程はこれで終了となります。最後に閉会のご挨拶を副会長からお願いいたします。

副会長： 皆さん、長時間にわたりまして慎重審議ありがとうございました。

今日話を聞いておきますと、自分の住んでいるところであるこの山北をこよなく思う気持ちが強く伝わってくるような感じがいたしました。

また別の機会に顔を合わせることもあろうかと思いますが、山北地区のことを思う気持ちをいつまでももっていただいて、今後も大切に生きていきたいと思っていますので、これからもよろしくお願いいたします。

大変ありがとうございました。ご苦労様でした。

5. 閉会 (15:43)